



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本YMCA同盟)

日本YMCA地球市民育成プロジェクト報告

ジュリア・ムン・パン

この報告は、APAY より地球市民育成プロジェクトに参加した APAY インターンのジュリアさんによるものです。



日本YMCA同盟主催の東アジア・サブリージョンの地球市民育成プロジェクトが、静岡県御殿場市の国際青少年センター 東山荘にて8月29日～9月4日まで開催されました。東アジアの日本、韓国、香港、台湾、マカオから76人の参加があり、アジア・太平洋YMCA同盟 (APAY) から2人のスタッフがオブザーバーとして招かれました。

参加者 (=研修生) が、このプロジェクトに対する期待を話し、またグローバル化のいい点、悪い点についてシェアしました。研修生の人数が多かったため、10人ずつの「ホーム・グループ」という小グループに分けられ、コミュニケーションや話し合い、プログラム中の言語バリアの解消を目的とし、各グループには1人が日本から、もう1人が海外の研修生から選ばれたリーダーがいました。

プログラムは、研修生の地球市民としての考え方を深化する目的で、参加型のワークショップによって行われました。「世界がもし100人の村だったら」と「新貿易ゲーム」というワークショップが行われました。ふたつのプログラムは、開発教育協会 (DEAR) 事務局長の中村絵乃氏がファシリテーションを行いました。

1日目

最初のワークショップ「世界がもし100人の村だったら」では、一人ひとりの研修生に国名、言語、□、○、△などの図形がかかれたカードが1枚ずつ配られました。はじめに

受けた指示は、渡されたカードに書いてある言語に従って、挨拶をすることでした。同じ言語を話す人たちを探すことが求められました。このパートでは、同じ言語を話す人でグループをつくりました。さらに、世界では、5000の言語や方言が話されていることを学びました。

2つ目の指示は、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、ラテンアメリカ、アメリカ・カナダという大陸ごとに分けられるというものでした。このパートでは、アジアが最も人口が多いとわかりました。また、アジアの人口密度が高いことと同時に、他の大陸にはさらにスペース (広い土地) があることがわかりました。

3つ目の指示は、カードにある□、○、△などの図形に従ってグループに分かれるというものでした。このパートでは、参加者がほぼ5等分となるグループに分けられました。ファシリテーターは、世界経済における富の分配の構造に従い、最先進国 (G7)、G20、発展途上国・最貧国それぞれに、「富」をビسケットというかたちで配付しました。それぞれのグループがどれだけの経済的な富を得ることができるのかを知った後、「富」が分割され、分配されました。そこで、まさに明らかとなったのは、第一世界、また豊かな国は最も多い枚数、発展途上国・最貧国よりもはるかに多くのビスケットを受け取るということです。適切に説明するならば、先進国・豊かな国は消費できないほどの富を持ち、他のグループは中の人々がちょうど分けるのに十分なほどの富を持ち、またあるグループが富の分配に困難がある一方で、他のグループには多くの人数がいるにもかかわらず、たった1枚のビスケットしか与えられませんでした。

最後に、ファシリテーターが研修生から父、母、そして娘の役を演じる人を募りました。両親は非識字者という設定です。ある日、娘が胃痛で苦しんでいて、薬を買わなければなりません。するとファシリテーターが、それぞれの名前が (訳注: ネパール語で) 書いてあるコップに入った3種類の薬を両親に渡しました。1つは胃痛を治す薬、1つは毒、1つは普通の水でした。両親は字が読めないのですが、3つのコップの中から娘に与えるべき適切なものを選びなくてはなりません。娘に正しいものを与えられるかどうか、彼らは勘を働かせ、一か八かの賭けをしなければなりません。このパートでは、薬が目のあるにもかかわらず、非識字者にとって誰の手も借りることなく病気を治すために正しい薬を選ぶことが、どんなに難しいか気づかされました。今日の世界には、25%もの非識字者が存在します。

ワークショップは3時間ほど行われ、その後振り返りを行いました。最初のワークショップで、多くの研修生が感動し

た一方で、富や資源の分配の不平等や不公平に対して怒りを覚えた人もいました。各グループでこのような感想や、富める者はさらに富み、貧しい者がさらに貧しくなるという、今日の世界を現実的に反映していることについてシェアされました。研修生たちは、このような状況をどうしたらよいか考えることができ、最も貧しいグループにいた人はその経験がとても身に染みていました。

2日目

次のワークショップとして、「新貿易ゲーム」が行われました。ホーム・グループがそのまま「国」という扱いになりました。NGOと国連の役割を DEAR スタッフ1名が担い、世界市場の役割を2名のYMC Aスタッフが担いました。それぞれの国には資源として製品を生産するための材料・道具が与えられました。各国は与えられた材料・道具で何をするか話し合い、計画しました。製品ができたなら、世界市場に行って売り、利益を得ます。最も多くのお金を得ることができた国が優勝するというルールです。

実際このゲームは、後で多くの研修生が指摘したように不公平なもので、一方で資源として多くの材料や道具、また資金や情報が与えられ、世界市場経済の最新情報が得られた国があったのに対し、他方では限られた資源、少ない資金、不十分な道具や材料しかなく、情報も得ることができず、市場からも差別されました。製品は他のグループと比べても同じ品質であったにもかかわらず、市場に認められないため先進国の半分の価格しか支払われない国もありました。このゲームの結果、貧しい国は貧しいままか、さらに貧しくなり、豊かな国はさらに豊かになりました。分析や振り返りを通して、不平等で不公平なゲームであると研修生たちは訴えました。世界経済や政治の構造から、これはまさに事実であると多くの人が考えました。多くの研修生は感情的になったり、またとても失望したり、怒りや差別されたと感じたり、搾取されたと感じたりしました。振り返りは、イラストやチャートから、それぞれの感じたことがまとめられました。また、疑問点や提案など、ゲームを改善するためのコメントも寄せられました。

3日目

研修生は、事前に渡された希望調査用紙に基づいて、3つのグループに分かれ、フィールドワークを行いました。

- ・グループ A 靖国神社と遊就館、在日本韓国YMC A
日本軍と戦争博物館でアジア諸国に対する日本の侵略と「論争の多い」日本の歴史観について学び、研修生から考えや反応がありました。博物館やYMC Aで見たような歴史にあまり目を向けて来ず、学校や大学でも教えられないことであったと話した日本の研修生もいました。
- ・グループ B 御殿場ヤクルト工場と養鶏場、神山復生園
神山復生園はハンセン病患者の治療・治癒のためにつ

くられました。そこでは、ハンセン病を患った人へのひどい差別や社会的に不名誉な烙印を押された事実について学び、話し合いました。

- ・グループ C 横浜YMC A、かながわ外国人すまいサポートセンター
横浜YMC Aは35の拠点を持つ大規模のYMC Aであること、また昨年3月の震災の後もさまざまな支援活動を行っていることが紹介されました。加えて、横浜は日本の中でも人口密度が高く、多くの外国人や観光客が訪れる場所です。しかしながら、地元の人々の多くは外国人に家・部屋を貸したくないことから、横浜YMC A内に拠点を持つ外国人すまいサポートセンターでは、そのような外国人に住まいさがしから他のことまで支援しています。

4日目

このセッションでは、プログラムの感想・振り返りや、フィールドワークで学んだことについて、ホーム・グループでシェアしました。フィードバックは、フィールドワークで感じたことと、次のアクション・プラン立案で何をするかの2点について話されました。富士山麓でのプログラムは悪天候のため中止になりました。(訳注:雨プログラムとして、カヤの実で笛をつくりました)

5日目



最終日は、アクション・プラン立案を行いました。中村絵乃さんから、どのようにアクション・プランを立てたらよいか説明されました。彼女は、現状や現在の課題と目標が設定された現実的なプランを例示しました。目標

を達成するためには、いくつかのステップが必要なのです。研修生は午前中いっぱいアクション・プランの立案をし、午後にはいくつかのグループに分かれて、研修生全員が各自のアクション・プランについて発表しました。

ほとんどの研修生が大学生であり、高校生も数人いましたが、すでにグローバル・イシューについての意識が高く、このような世界で起こる現象の良い影響や悪い影響について考えたことがありました。現実的で、実践・実施可能なアクション・プランもありました。研修生が各自の所属YMC Aにて、プランを実現すべく活動してほしいと思います。全体として、研修生や私たちスタッフやオブザーバーは、この地球市民育成プロジェクトから多くのことを学びました。ユースと交わることができる、印象的なプログラムでした。このように、毎年行われる東アジア地域の地球市民育成プロジェクトの夏期研修に参加させていただき、感謝申し上げます。

総主事デスクより・・・
モンゴル・ウランバートルとパキスタン・カラチのYMCAを訪ねて

アジア・太平洋YMCA同盟総主事
山田公平



モンゴルでのYMCA設立への可能性



10年ほど前に韓国のYMCAが、モンゴルの首都ウランバートルにYMCAを設立しました。2006年にはその応援のためパートナー会議が現地で行われ、日本、韓国、台湾、フィリピンのYMCAが参加しました。当時の理事会はほぼ全員韓国人で、総主事は宣教師というYMCAでした。残念ながら本来の活動とは違くと行政に判断され、2008年に登録を取り消され、今日YMCA運動は行われていません。

この9月に、日本(上久保昭二 広島YMCA総主事)と韓国(Nam Boo Won 韓国YMCA全国連盟総主事)そしてAPAYから私が参加して、現地にある Christian Youth Association(CYA)の人たちと会ってきました。CYAは、YMCAとよく似た活動をしている団体で、将来はYMCAとして活動する可能性があるかと判断しました。CYAの現会長がアメリカ留学中に、アメリカのYMCAに関心を持ち、モンゴルにもYMCAをという願いを持って、連絡をしてきました。ミッションやヴィジョンを見ると、「若者や基督者たちの願いを結集し、社会に貢献すること」ということや、「モンゴル全地域に運動を広げ、信仰と行動によって、全人的成長を若者にもたらし、将来のリーダーを育成する」というようなヴィジョンを持っています。ここにYMCAとの共通の願いがあることが分かり、CYAとYMCAが共にその活動や組織のあり方などを分かち合いました。

CYAは、月に1回程度の活動をボランティアだけで進めています。会員は150名、うち30名は活発に参加しているボランティアで、もっと地域活動を推進したいと言っています。全員がさまざまな教会に属するクリスチャンの若者で、CYAは教会と地域をつなぐ架け橋になりたいと言っていました。

CYAがYMCAとしてスタートするかどうかは、1年後に決定しようという話になりました。それまでは、APAYの会議や、日本、韓国のYMCAとの交流をして、1年かけてYMCAがどんな団体かを考えてもらう期間にしようとなりました。3月のAPAY常務委員会やワークキャンプなどにも参加してもらい、YMCAとの交流を図っていく一年としていき、来年9月にもう一度会って、正式にYMCA設立をなるかを話し合うという申し合わせをしました。

パキスタン、カラチYMCAの状況

パキスタンには二つのYMCAがあります。ラホールとカラチです。カラチのYMCAはアジアでももっとも古いYMCAの一つで、1860年に開設されました。この10年くらいの間に、残念ながら、理事会が二分され、どちらが正式の理事会かを裁判で争ってきました。



その間に、広大な敷地には、外部の違法業者が入り込み、勝手に商売を始め、敷地の大半がYMCAの手から離れてしまうという悲劇が起きました。2012年9月にニュージーランドのポール レグロス(元 APAY 副会長)とわたしが訪問し、関係者みんなと会い、何とか妥協点がないかと、話し合いを進めてきました。

こんな混乱状況の中でも、カラチYMCAには、学校が3箇所あり、敷地の一部に3階建ての専門学校[機械技師育成]があり、600人が2年コース、3年コースに通っています。小中学校が2箇所あり、それぞれ300人前後の生徒が通っています。校舎はかなり古く、ひどい状況ながら、先生達を中心に活動を続けています。

今後、どのようにカラチYMCAの再建を進めるかを話し合いました。裁判で争っていても共通の認識が確認できませんでした。意見の違いはありながら、共通の認識を、文章にした覚書を作り、それに合意してもらうこと。その合意に基づいて、元通り、YMCA施設の復帰を図っていこうと言うものです。しばらくは、APAYが中間にたってその動きを作っていくこととなります。皆様からの応援と祈りを願います。

ユース参画とリーダーシップ開発(YPLD)

音楽やアートに通じたユース・エンパワーメント

インドネシア ステディー・カンボジ



7月にシンガポールで行われたYMC Aユース・カンファレンスに参加し、その際 Youth Got Talent でパフォーマンスをしてから、私の中で何かがクリアになりました。若者・ユースが最も必要とし、切望するものが2つあるということです。それは、励みとなること(encouragement)

と認められること(acknowledgement)です。私たち若者は、私たちがほしいと思う物を創造するためのエネルギー、能力、技術やスキル、知識を持っていますが、周りの人たちに関心を寄せてもらう必要があります。そして、私たちが社会でよき原動力となれるよう、周りの人たちからの支え、正しい道への導きや育成を必要としているのです。

社会では、そこで起きる深刻な問題に対して、若者は未熟すぎるために対処することができないと考えられており、若者を無視する傾向があります。「若者たちは導かれ、育成されるべきである」と悟った成人であっても、私たちがふさわしくなく、また私たちの関心に合わない道へと導きます。このようなことは、若者にフラストレーションや、やりたいことが実現できないという苦しみを与えるのです。

このようなよくない結果を減らすためには、若者みんなが大好きなものに取り組むことです。それは、アート・芸術です。ほとんどすべての若者は、絵画、歌、ダンスなど、何かしらの形態のアートが大好きです。もしこのような興味・関心事に対して励まされ、認められれば、若者が成人し、成熟していくにつれて、社会に対する態度を形成するのによい影響を与えるでしょう。さらに、社会で若者の置かれているポジションについても、役に立たない集団としてではなく、本当は重要な役割があるということを感じることができます。

このような、音楽を通じたエンパワーメントの実際の例は、私がまだピアノのコースにいたときに経験したことです。コースの参加者は、小学生から高校生までの児童・生徒がほとんどでした。音楽を練習している児童・生徒たちは、初対面の人に対しても、敬意を払わなくてはいけない高齢者に対しても、他人に対して親切であると私は考えます。音楽の練習が忙しいにもかかわらず、学校の成績が優秀な人も多くみられました。

このことを通じ、音楽であれ、絵であれ、若者が興味を持つ何かをすることについて励まされたり、認められたりすることで、よい人になり、社会でも重要な役割を果たすことができる若者となれるよう、エンパワーされるでしょう。

ユースの行動を通じたユース・エンパワーメント
香港 リサ・リー・ワイシャン



大学生活は、学びと実践に満ち溢れています。社会福祉(ソーシャルワーク)を専攻する学生として、また香港のキャンパスYに所属する者として、私はユースの行動を通じ、私たちの社会について知り、理解し、奉仕したいと思っています。

YMCAのユース・グループでは、異なる経験をすることができます。私は、インターリム・ハウジング(訳注:香港で、Interim Housing・中転房屋と呼ばれる、低所得者向け官営住宅へも入居できない人々のための仮住まい)で暮らすホームレスや新たな移民の人々に奉仕するためのボランティア・チームをつくりました。私たちは香港の社会問題を学び、アクションを計画し、小さな変化を望んでいます。

ミャンマーでの奉仕プログラムを運営した後は、中国・湖南省でもうひとつのユース奉仕プログラムに携わりました。

私の学生生活の中でも宝物のような思い出です。私たちの身の回りをよりよく理解し、必要としている人にどのように奉仕すればよいか調査し、学んでいます。これがYMCAで得た貴重な授かりものです。私たちユース全員が、情熱を持って行動し続けることができ、より多くのことが経験できますように。

グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク
GATN 計画ワークショップ ダンカン・チョードリー

APAY主催のグローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク(GATN)の企画ワークショップとトレーナーズ・トレーニングが、8月31日~9月2日、タイ・バンコクで開催されました。APAYのGATNタスク・フォースのメンバーとアジア・太平洋地域のアドバイザーが出席しました。メンバーは、オルタナティブ・ツーリズムが独立したネットワークへ変革すること視野に入れながら、今後3年間のGATNプログラムの企画についてブレインストーミングを行いました。

初日は、APAY 山田公平総主事より、2012~2015年のAPAY戦略計画としてのGATNプログラムの構成要素が説明されました。私たちの計画を実行するためには、私たちの企画力と、誠意ある創造性が必要とされていることが強調されました。YMCAの観光業や個々のコミュニティーへのかかわりは、かなり実体を伴っており、それゆえ、オルタナティブ・ツーリズムの不可欠な部分であるコミュニティーに基づく観光(community based tourism)が私たちのYMCAを通じてより広められる必要があります。プログラム担当主任主事のダンカン・チョードリーより、過去4年間のAPAYにおけるオルタナティブ・ツーリズムの変遷が紹介されました。Caesar D' Mello氏は、「観光業の実態に関する私たちの理解(Our Understanding of the State of Tourism)」という報告書で、観光業によるよい影響、開発、貧困の減少という神話について発表しました。ダンカン氏は、今後3年間のオルタナティブ・ツーリズムのAPAYの計画の概要について、GATNのビジョンに基づき、スキル向上、マーケティング、宣伝、リンケージ、宣伝、組織作りと独立性を挙げました。その後、グループ・ディスカッションと全体発表が行われました。

2日目には、ランジャン・ソロモン氏が「共に生きる社会に向けた人々の出会いとしての観光業(Tourism as Human Encounters Towards A Common Humanity)」というテーマで、彼の意見を発表しました。オルタナティブ・ツーリズムは、現在の大衆観光業の代替になると強調しました。2つ目のプレゼンテーションはCaesar D' Mello氏によるもので、GATNのマーケティング戦略についてでした。続けて、内へのマーケティングと外へのマーケティングについてのセッション、グループ・ディスカッションと全体発表が行われました。

3日目には主に、今後3年間のGATNによるAPAYのプログラムを決定することに集中しました。全員で熟慮を重ね、時間枠に沿ったアクション・プランを完成させました。2013年には、アジア・太平洋地域のYMCAにおいてオルタナティブ・ツーリズムの拠点を設立することに主眼が置かれ、2014年にはオルタナティブ・ツーリズムのマーケティングに重きが置かれ、2015年には、APAYのオルタナティブ・ツーリズム運動がかなり独立性を持つように変革する努力がされることで、将来のオルタナティブ・ツーリズム促進のために続けて独立的な機能ができるようにします。

**リソース・モビリゼーション・ワークショップ(2012年9月)
 エロイサ・ボレオ**

近年の世界的な金融危機が、アジア・太平洋地域を含む世界中のYMCAの資金繰りにかなりの悪影響を及ぼしています。このような危機にもかかわらず、財政的な資源やボランティアの時間は、減っているどころか増えています。この良い変化は、YMCAが良いプログラムや良いイメージを持っていること、支援者や募金をくださる方々へよい例として示すことができるような貧しいコミュニティーへの適切な奉仕・サービスを行っているということに基づいており、多くの方々がYMCAのよき働きのために引き続きご支援くださっています。このことで重要なのは、北米のYMCAが長い時間をかけてリソース・モビリゼーションに関するプログラムのパッケージ化を促進してきたことを、アジア・太平洋地域でも学ばなければならないということです。

ご存じのとおり、北アメリカYMCA開発機構(North American YMCAs Development Organization: NAYDO)は、フィナンソपीーに関するトレーニング・ワークショップを毎年開催してきました。NAYDOでは、計画的に行われている毎年のファンドレイズ・キャンペーンを通じたリソース・モビリゼーションの効果的なアプローチや、資源を生み出す他の方策が提示されました。

しかしながら、私たちが現在のリソース・モビリゼーションやファンドレイズのおかれている状況にとどまっているという現実には、まさに文化の相違によるものなのです。よいリソースを選び、人々の心や思いに触れ、彼らや私たち自身にYMCAのよき働きを支援するために与えられるよう、支援してほしいと説得することを、まだ学べていないのです。

さまざまに異なる国にある私たちのYMCAが一体となり、直面するチャレンジに立ち向かい、リソース・モビリゼーションを通して私たちのYMCAをさらなる高みへと導くために先導できるものは何か、再発見するべく、ともに学び、ともに行動しようではありませんか。私たちの置かれているそれぞれの場所で、今後年間の募金計画目標を達成し、プログラムが進展するよう、私たちがスタッフ、ボランティアや会員と共有したいと思えるプログラムを通して、YMCAの名前をより大きなものにしていこうではありませんか。

APAYが世界都市YMCA会議やNAYDOからの支援や協力を要請するのは、アジア・太平洋地域にあるさまざまな国の各YMCAにて、それぞれのYMCAの現実や文化に配慮したリソース・モビリゼーションのワークショップのファシリテーションを行い、ボランティア・コンサルタントやリソース・パーソンを送るためです。

最初の一連のワークショップのスケジュールは下記の通りです。

- 10月2~4日、インド・プネ
- 10月6~8日、インド・ケーララ州トリバンドラム
- 10月12~14日、スリランカ
- 11月22~25日、フィリピン・バギオ

ボランティア・コンサルタントやリソース・パーソンがこれらの会議に出席します。各地でのワークショップの後、リソース・パーソンがそれぞれのYMCAの認証主事やボランティア・トレーナーを支え、現実的な年間募金計画の立ち上げ準備を整え、必要なリソース・モビリゼーションのインフラ機能を策定します。今年度のAPAYボランティア・コンサルタントは以下の方々です。カナダ・エドモントンのRon Coulombe氏はすべての分野におけるリード・ボランティア・コンサルタントであり、ファシリテーターでもあります。彼をサポートするのは、アメリカ出身で、プネのワークショップでボランティア・コンサルタントであったBrenda Blakovich氏、トリバンドラムのワークショップ担当であった、カナダ出身のJamie Inman氏、スリランカのワークショップ担当のアメリカのJessica Rawn氏、フィリピンのワークショップ担当のPaul Andersen氏です。まず、APAYは3年間で8~10の国のYMCAとともに働くことを望み、今のところタスクが前進したことを確認しました。

初期段階の立ち上げがうまくいき、8~10の国のYMCAがそれぞれのリソース・モビリゼーションのモデルや実践のために、良い結果を出すことが望まれています。それぞれのYMCAの働きが最善のものとなるよう、祈りを合わせましょう。

**各国YMCA情報
 バングラデシュYMCA同盟 新総主事**



2012年9月1日付で、バングラデシュYMCA同盟の新総主事に、Nipun Sangma氏が任命されました。2011年11月1日より、バングラデシュ同盟の主任主事としてキャリアを積み重ねました。氏は、バングラデシュで、20年以上コミュニティー開発に携わってきました。YMCA入職前は、いくつかの団体が部長を務めました。Sangma氏は、ダッカ大学で商・経営学の修士号、カナダの聖フランシスコ・ザビエル大学のCOADY国際研修所で社会開発学の学士号を修めました。

発行元
アジア・太平洋YMCA同盟
 Asia and Pacific Alliance of YMCAs
 23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
 tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
 e-mail: office@asiapacificymca.org

Youth Participation and Leadership Development (YPLD) Committee Members



Amber Grayson
Australia



Sukhen Joseph Gomes
Bangladesh



Alvin Kan
(YPLD Chair)
Hong Kong



Joana U Hoi Teng
Hong Kong



Betsy Merlyn Williams
India



Nattaphon
Sakulvanaporn
さん
ありがとうございました。



Hendrikus Rahardjo
Indonesia



Yoriko Hashizaki
Japan

タイ代表 YPDL メンバー
Nattaphon Sakulvanaporn
氏が 9 月 14 日付でお辞め
になりました。6 か月間にわ
たり、APAY にボランティアと
して貢献されてきました。

APAY は、Nattaphon 氏の
YPLD への貢献や支援に感
謝申し上げます。今後のご
活躍をお祈り申し上げま
す。



Ng Yee Khai
Malaysia



Mark Clester Rufino
Philippines



Oliver Loke
Singapore



Philip Damion
Arumugam
(YPLD Vice-chair)
Sri Lanka

National Youth Representatives from Asia and Pacific Regions



Joel Clark
Australia



Alicia Crawford
Australia



William Gourav
Sammader
Bangladesh



Neang Channeth
Cambodia



Sreyov Kun
Cambodia



Chan Mei Yan Victoria
Hong Kong



Lee Mei Sin Fiona
Hong Kong



Rajah Daniel Stephens
India



Philip Joseph John
India



Misaki Nagaoka
Japan



Kurosawa Shinichiro
Japan



Lee Ji Yoon
Korea



Cheng Hoi Ian, Fay
Macau



Wu Hoi San, Debbie
Macau



Teh Peng Choon, Barry
Malaysia



Ng Kee Ming
Malaysia



Saw Tun Lu
Myanmar



Joshua Pyae Sone Oo
Myanmar



Samarpan Acharya
Nepal



Tuphan Gurung
Nepal



Christopher San Ramon
Philippines



Marvin Tapiador
Philippines



Gwendolyn Goon
Singapore



Tan Wei En Wayne
Singapore



Udara Devmee Perera
Sri Lanka



Geethi Imasha
Thathsarani
Sri Lanka



Hsiao Wen Wen
Taiwan



Ekachai Chaiya
Thailand



Tidarat Penvijit
Thailand

Currently there are altogether 40 Change Agents from Asia & Pacific Alliance of YMCAs (11 YPLD members and 29 National Youth Representatives).